

特別な配慮を要する学生への対応
ハンドブック
(教職員用)
2023年改訂版

相愛大学保健管理センター

1. こんな学生いませんか？

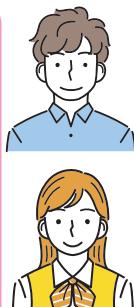
身体、精神（心理）、発達のいずれかの障がいがある学生や、それらが疑われる学生では、特別な配慮が必要です。また、心身共に不調であり対応に困る学生、様子が気になって相談やサポートが必要であると思われる学生にも配慮が必要になります。

実習 実験

- ・実験の手順が理解しづらい
- ・グループでうまく協同できない
- ・実習先でトラブルを起こす
- ・臨機応変に動けない
- ・同じミスを繰り返す

講義

- ・突然的外れな質問をする
- ・急な変更で固まってしまう
- ・ソワソワ、キヨロキヨロしている
- ・提出期限を守れない
- ・科目履修の管理ができない
- ・発表時、極端に緊張する
- ・板書が見えづらそう
- ・耳が聴こえにくそう



対人関係

- ・いつも一人でいる
- ・サークルや級友と頻繁にトラブルを起こす
- ・いつも同じ質問をしている
- ・場の雰囲気や相手の意図がよめない
- ・暗黙のルールが分からぬ

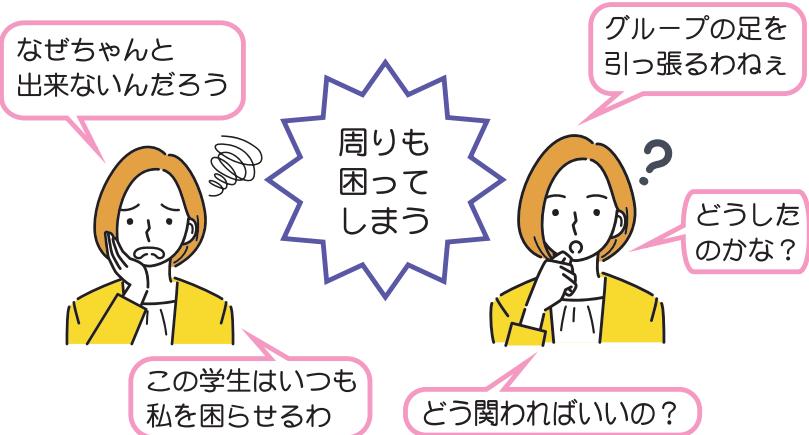
就職

- ・どのような職業に就きたいのかはっきりしない
- ・自身の適性がわかっていない
- ・現実的でない職業を希望する
- ・面接でいつも断られる

心身や日常生活

- ・感情の起伏が激しく、不安定
- ・ものごとがうまくいかないとパニックになる
- ・混雑した電車に乗れない
- ・手洗いや鍵の確認がやめられない
- ・長期の欠席や急激な成績低下

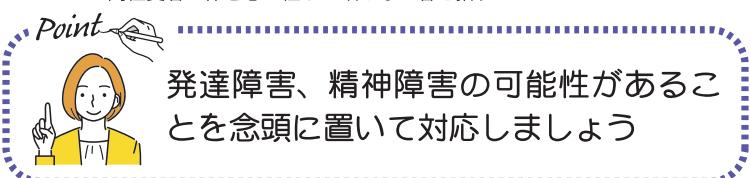
学生は、様々な問題行動を通して
私たち教職員に訴えかけています



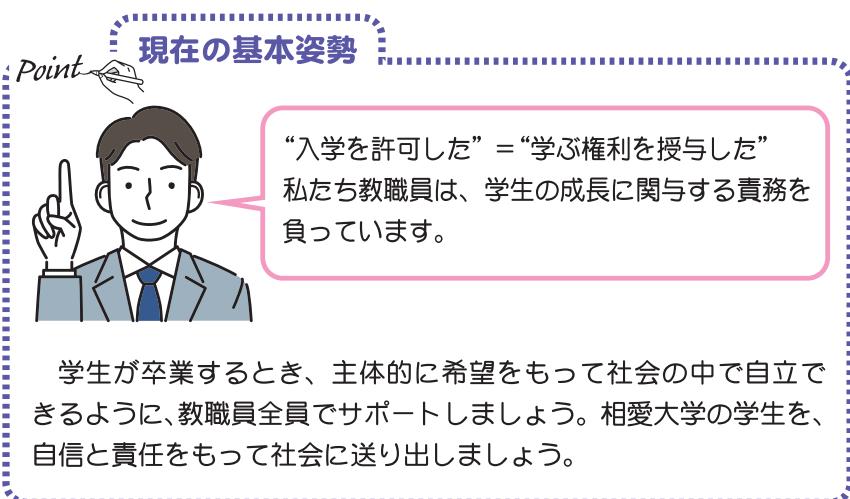
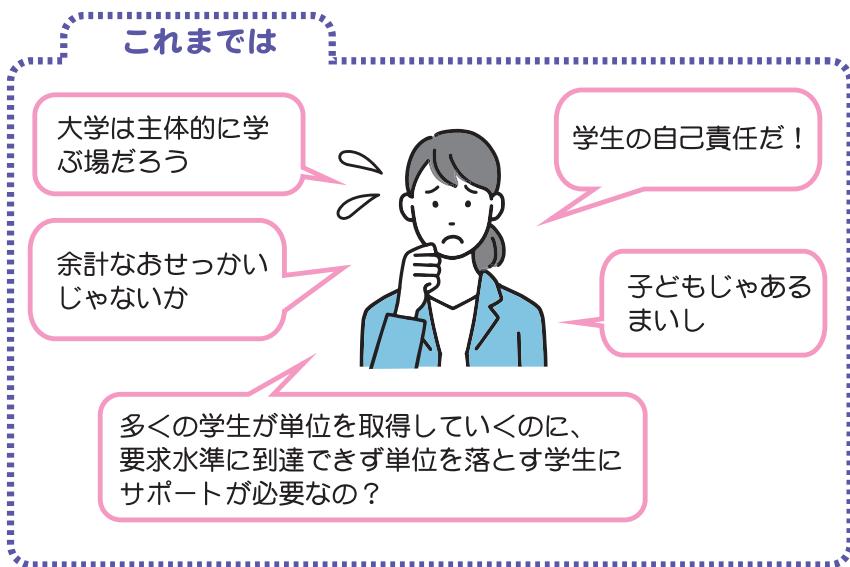
こういった特徴は多かれ少なかれ誰にでも当てはまることがあります。しかし中には発達障害が関係している場合や精神的な病気のシグナルである場合があります。様々な可能性を考えて対応することが重要です。



*LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）
同性愛者・体と心の性が一致しない者を指す

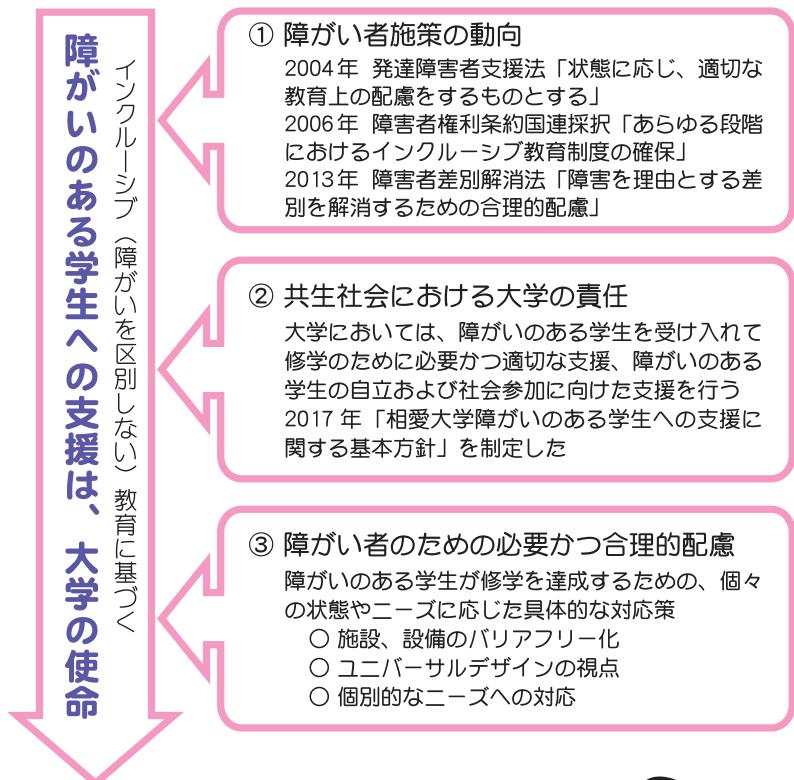


2. 大学でなぜサポートが必要なのか？



3. サポートに関わる基本理念

障がいのある学生が、他の学生たちと格差なく学生生活をおくるための研究が進んでいます。心身に障がいのある学生には、どのような「特別な困難」があるのか、どうしたら解決できるのか、その基本理念を考えてみましょう。



いまや、私たち大学教職員は、
研究者・教育者・管理者だけでなく

大学教職員＝サポーター



4. 教職員のだれもがサポーター

学生に適切に接するための具体的なスキル

Step1 困っている学生に気づく

「Aくんは、いつも元気だな」
「Bさんが時々授業を休むようになったけどどうしたのかな」
「Cさんがレポートのこと聞きにきたけど、ほんとにそれだけだったのかな？」



私たち教職員は、窓口業務や授業だけでなく、学内の移動中にも学生に目を向けましょう。そうすることで学生の変化にも気づきやすくなります。

Step2 気づきを大切に

「Aくんは、最近元気がない」
「顔色がさえないけど、Bさん、どうしたのかな？」
「Cさん、挨拶とか何気ない話をよくしにくるようになったあ」



学生の様子や変化に気づき、“困っている”学生に気づくことが大切です。

Point



SOSのサインに気づこう！

学生は困っているからこそ、問題行動をとってしまう可能性は高いです。私たち教職員は、学生の SOS のサインに気づいてあげようと心がけることが大切です。

Step3 話を聴く

「Aくん大丈夫？元気なさそうに見えるよ」

「Bさん、困ったことないですか？」

「Cさん、不安なことあるの？」



困っている学生に気づいたら、学生が困っていることや悩んでいることについて、学生と対話をして、聴いてみることが重要です。

話を聴く重要なポイント

話を聴くことができる
時間の確保

静かで落ち着いた場所や
部屋を設ける

学生に過度な不安と
緊張を与えない
ようにする

すぐに問題解決を
図ろうとせず
じっくり話を聴く

問題の原因探しに
固執せず
学生の気持ちに寄り添う

学生と信頼関係を
作れるように
心がける

教職員の価値観や考え方
意見を押しつけない

守秘を約束してあげ
安心して話せるようにする

Check

いつも気にかけて関心を寄せていることを、学生一人ひとりに伝えることが大切です。具体的な問題を解決するには時間を見る場合もあります。そのため、学生にとって、話を聴いてくれて、一緒に問題解決をしてるサポーターを求めていることを忘れずに関わりましょう。

5. 学生サポートのための連携の重要性

ひとりでサポートするわけではない

Step1 学生に応じたサポートをイメージする

「Aくんは進路のことでの不安がいっぱいだった」

「Bさんは体調不良で登校しづらいんだな」

「Cさんは根本的に問題を解決できていなかった」

学生の悩みや不安がわかれれば、その学生がどのようなサポートを必要としているのかを想像することが大切です。



Step2 サポートはチームで

「Aくんは進路かあ、相談にのれるけど、学生支援センターを紹介してあげよう」

「Bさんの体調不良の原因は何だろう？保健室の看護師さんに相談してるのかな」

「Cさんは精神的に大変だな。学生相談室を紹介してみよう」

学生のサポートは、役割と責任を分担しましょう。ひとりで抱え込まずに、チームでサポートをすることが大切です。



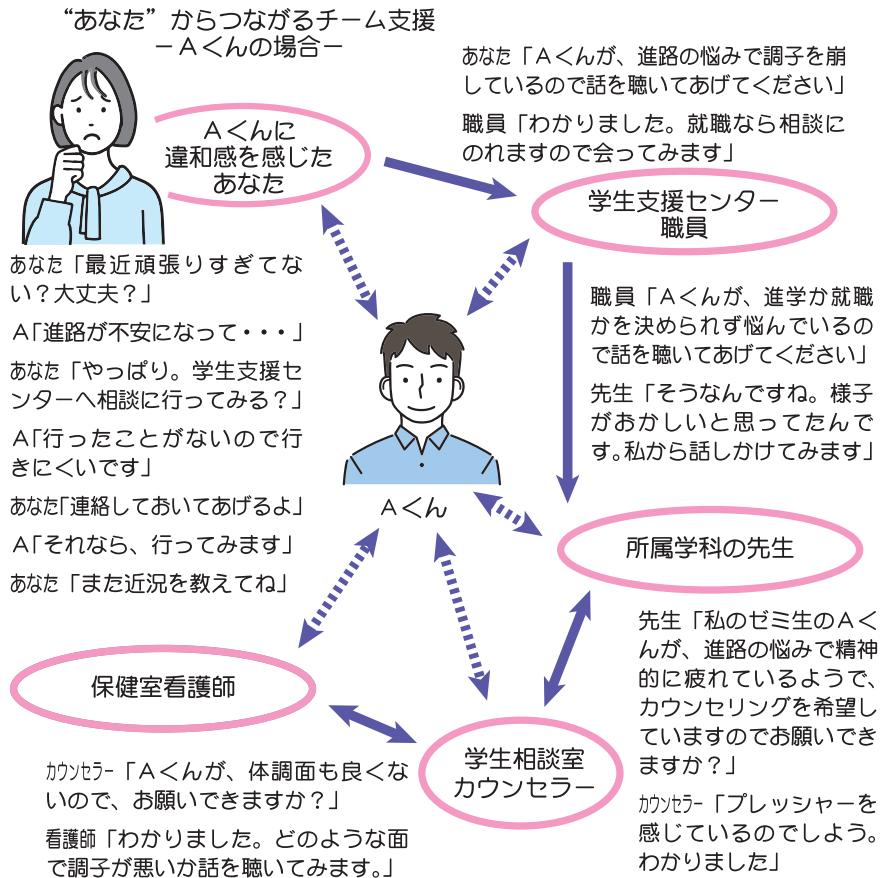
Point



より良い学生サポートのために

- ・自分ができる範囲を明確に理解しましょう
- ・サポートをつなげた後もフォローや支援をできることがあります
- ・サポートの輪を広げよう
- ・サポートの輪を強化していこう

チーム・サポートの実際



Point

- ①ひとりでも多く、チーム・サポートの一員として集まる
- ②チーム全員が学生から聞いた情報を交換し、整理する
- ③チーム全員があの人の方法を尊重し、責任を持ち、サポートを続ける

6. サポートする際の注意点

メールや Line 交換

「Line 交換しよう。いつでも話聞くよ！」

良かれと思っての行動ですが、いつでも連絡が取れるようにしてしまうと、学生が自分で考えたり、行動したりする機会を奪うことにつながってしまう可能性があります。また、学生がいつでも自分の話を聞いてもらえると思うと、気持ちが止まらなくなってしまい、状態が悪化することもあります。

授業の一環でメールアドレスや Line などを教える場合も、対応できる時間（平日の 10 時から 17 時までなど）などのルールを決めておくとよいでしょう。



情報共有

「学生相談室の先生に様子を聞いたよ！」「助手さんからも話を聞いたよ！」

チームでサポートする上で教職員間での情報共有はよくあることですが、中には学生に許可を取っていない内容を共有することもあります。しかし、学生の知らないところでのやり取りがあったことをそのまま伝えてしまうと、学生が不安になってしまい、誰にも相談できなくなるということに繋がるので十分注意しましょう。



7. ケーススタディ

Case 1

Aくんは時間管理がうまくできず、授業や試験に遅刻したり、行くこと自体を忘れてしまうことが多い。また、授業中に教員が言ったことをすべてメモするので、後でノートを見返すと、自分でも何が重要な分からない。そのため、筆記試験でも点数が取れずに単位を落としてしまうことが続いた。

相談を受けたカウンセラーは、スケジュール帳や携帯電話のアラームなどの使い方を指導した。このことを家族に伝え、家庭で引き続き指導できる体制を整えた。また、ノートのまとめ方などは教員が指導することになった。試験の前日や当日は、試験開始時間を本人が忘れないように、家族が繰り返し注意を促すことで遅刻を防ぐようにした。



Case 2

Bくんは真面目に学業に取り組み優秀な成績を修めていた。しかし、2回生になった5月中旬から大学に来れなくなり授業の欠席が続いた。Bくんからも何の連絡や相談もなかったため、教員がBくんの欠席状態に気づいたのは6月中旬になってからだった。そこで、Bくんへのサポートを考えるようになった。

教員は、まず教職員間でBくんについて情報共有した。そしてすぐにBくんに連絡を試みたが連絡がつかず、そのためBくんの保護者と話し合い、安否確認をした。その話し合いから、2回生になり学業に困難さを感じていたことが把握できた。教員は、Bくんの学業の困難さを理解しようと個人面談をし助言を与えた。また、精神面をサポートするため学生相談室の予約をいれた。

Case 3

Cさんは女性として育ってきたが、物心ついた頃から男の子が好みのような遊びが好きで、自分が女性として扱われることに心の中で違和感があった。その違和感は思春期に入ると強まり、女性らしさを周囲に求められることが非常につらく感じられるようになった。ある日Dさんはこの悩みを教員に打ち明けた。

Cさんの具体的な悩みは、女性用トイレを利用しづらいことや、体育の授業の際の着替え場所に困っているということなどであると、教員に打ち明けられた。学生支援センターと情報を共有し、すぐに対応できそうなところから改善していくことになった。また同時に、性への違和感については学生相談室で継続的に話をしていくことになった。今後は、両親も交えて話し合いを進めていく予定である。

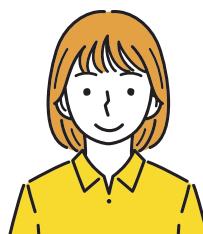
Case 4

Dさんは、1,2回生の時はコロナの影響でリモート授業が多かったが、毎回きちんと出席し、課題や試験についても本人なりに取り組んでいた。しかし、3回生になって対面授業が増えると、複数の授業で欠席や課題提出の遅れや抜けが目立った。気になった担当教員より声をかけると、Eさんは、ほかの学生と思うように話ができず、自分だけ大学になじめていないように感じ、やる気が出ないと話した。

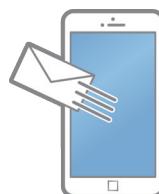
担当教員は、大学生活への不適応を心配して、Eさんに合同研究室を紹介したのと同時に、合同研究室の助手にもEさんの状況を共有した。また、学生相談室の利用も勧めた。合同研究室では、助手との会話をきっかけに、ほかの学生と関わりを持てるようになった。学生相談室では、コロナ禍で交流の機会が減ってしまったことや、大学という自主性が求められる環境での対人関係のむずかしさを語った。集団場面での見守りと個別場面でのふり返りの両輪で様子を見ていくことになった。

Case 5

1回生のEさんはレポートの書き方や提出方法がよく分からず、担当教員に分からぬ点をメールで相談することにした。教員からはとても親切で丁寧な返信が来たのでEさんはとても安心した。細かいところが気になるEさんはさらに分からぬところを詳しく教えてもらおうと長文のメールで質問を何度も送ったり、深夜にも日頃から大学生活で困っていることなどを教員に相談するようになっていった。教員はメールの対応が次第に負担になり、分からぬことは授業内で質問するようにと返信すると、Eさんは大学に来なくなってしまった。

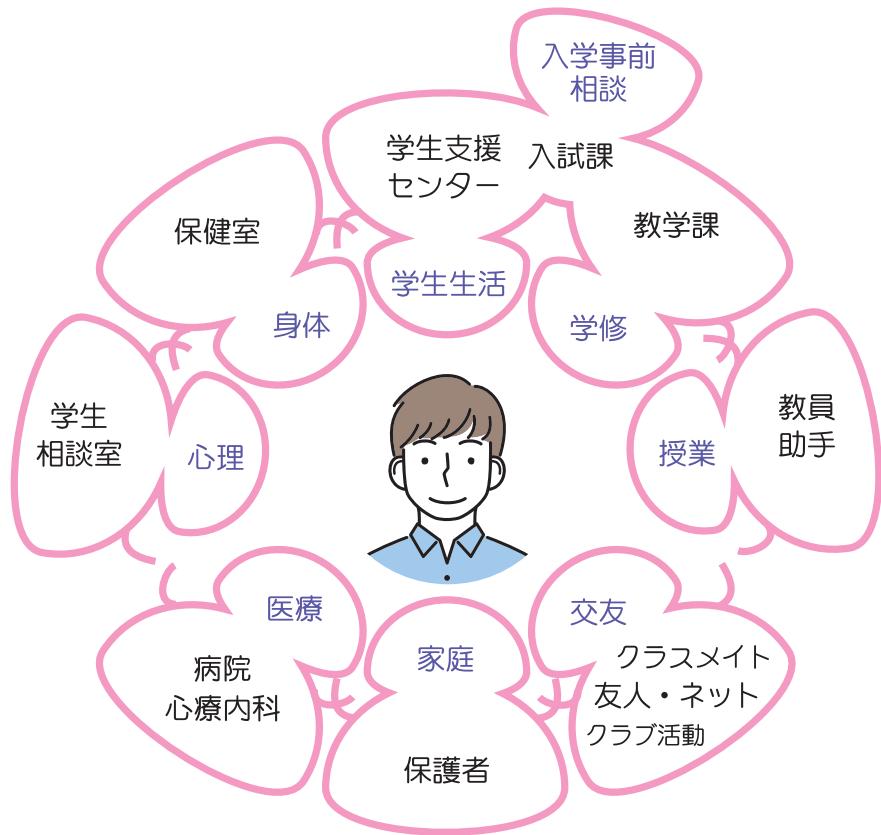


教員から合同研究室にEさんが授業に来なくなったと相談。合同研究室の助手からEさんに連絡すると、Eさんは教員から怒られたと感じて落ち込んでおり、大学に来にくくなっていた。合同研究室から学生相談室で話を聞いてもらうよう勧め、予約の取り方を教えた。相談に来たEさんは、地方から進学して慣れない一人暮らしを始めたばかりで友達もおらず、相談相手が教員しかいないためメールができなくなりどうしていいのか分からなくなっていた。学生相談室のカウンセラーと話し合い、困りごとの内容に応じて合同研究室や学生相談室、支援センターなどの相談窓口を紹介してもらった。また、学生相談室主催のイベントにも参加し、他の学生と話す機会も増えた。



8. 相愛大学のチーム・サポート

私たちが所属する相愛大学は、比較的小規模な大学です。小規模校だからこそ持っているメリットを活かしていきましょう。



私たち教職員は、一人ひとりの学生に接する機会に恵まれ、サポートを必要とする学生にきめ細かいサポートができます。そして、お互いに顔見知りなので、教職員の間でも人間関係を作りやすく、お互いにチーム・サポートを働きかけることができます。

9. Question & Answer

Q. 実際にチーム・サポートするにはどう集まるのですか？

A. 私たち教職員は、それぞれが担っている役割があります。サポートができる関係者は、声をかけ合うことができます。まずは、気を張らずに電話や電子メールで連絡を取り合うことから始めていきましょう。



Q. サポートチームで共有された情報を扱う上でどのような注意点がありますか？

A. 私たち教職員はそれぞれ守秘義務があります。学生をサポートする上で、チームでの情報共有は必須となってきますが、これは情報を共有することで学生のサポートに有用になるという考え方のもとに行われます。「相談室の先生から聞いたけど・・・」というように対象学生に情報が共有されていることが伝わってしまうと、学生との間の信頼関係が壊れてしまう危険性があります。チームで共有された情報を扱いには十分に注意しましょう。



Q. つなぐって、他の教職員の仕事を増やすことにならないですか？

A. 増やすことになりますが、まず、私たち教職員が全学的に連携をして学生サポートに努めていくことを認識しましょう。実際に、あなたが学生の様子の変化に気づかれたことは非常に大切なことです。それを学生のためにサポートをつなげましょう。お互いの役割を尊重し、“仕事の壁”を低くしていきましょう。学生のためにサポート・チームワークが最も大切です。また、私たち教職員のメンタルヘルスも非常に大切ですから、一人で抱え込まずに、周囲に助けを求めましょう。



Contents

- 1.こんな学生いませんか？
- 2.大学ではなぜサポートが必要なのか？
- 3.サポートに関する基本理念
- 4.教職員のだれもがセンター
- 5.学生サポートのための連携の重要性
- 6.サポートする際の注意点
- 7.ケーススタディ
- 8.相愛大学のチーム・サポート
9. Question & Answer

発行：相愛大学保健管理センター

大阪市住之江区南港中 4-4-1

TEL : 06(6612)5932

発行日：2023年3月1日